

つかむ

調べる

まとめる

深める

～複数の資料を比較・関連付け・総合し、多面的に社会的事象を捉え、考えを深める活動～

### 1. 小单元名『工業の今と未来』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.142～155／学習指導要領：内容（3）ア、イ、ウ）

### 2. 小单元の目標

さかんな工業の種類や工業地域、大工場と中小工場それぞれの生産の様子など、日本の工業の特色を捉えさせる。また、高い技術やアイデアを生かし、心の豊かさをもたらす工業生産が進められていることを捉えさせるとともに、これからの工業生産について考えさせる。

### 3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
生活が様々な種類の工業製品に支えられていることに気づき、日本の工業生産の特色について、興味をもって調べようとしている。	海沿いや一部の内陸部で工業生産がさかんな理由について、土地の条件や交通網の発達と関連付けて考え、表現している。また、工業生産と人々の生活を関連付けて、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、表現している。	大工場や中小工場の特色について、資料から読み取ったことをノートや教科書にまとめている。また、高い技術を生かしてものづくりをする中小工場の工夫や努力について、必要な情報を資料から読み取り、ノートにまとめている。	工業がさかんな地域の分布や、生産の割合が大きい工業の種類、日本の工業生産を支える中小工場の優れたものづくりなど、日本の工業の特色を捉えている。また、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 教材について

本小单元では、工業地域の分布や大工場・中小工場の違いなどを読み取る統計資料を多く活用しながら、学習を展開する。児童に習得させるべき基礎的・基本的な技能として、統計資料の読み取り方や読み取る視点などを丁寧に指導する必要がある。そのうえで、それらの読み取った情報を比較・関連付け・総合し、日本の工業生産の特色を考え、表現させることで、知識・理解の定着を図る。

また、これまでの学習を生かしながら、これからの日本の工業生産の方向性について考える活動を通して、子どもたちが明るい展望をもてるようにしたい。

#### (2) 指導上の工夫・留意点

本小单元は、大单元のまとめに位置づく单元でもある。そのため、わが国の工業生産の現状や課題ばかりではなく、「日本の工業生産の強み」を再認識させることも重要である。これまでに学習してきた、ものづくりの技術や人々の思いを振り返り、世界に通用する日本の工業生産や工業製品について、自信や誇りを感じられるように、話し合い活動を設定した。

## 5. 小単元の指導（総時数7時間）

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	生活が様々な工業製品に支えられていることや日本の工業生産の傾向を捉え、日本の工業に対して関心をもつことができるようにする。	○工業製品の仲間分けをしたり、日本の工業生産額の変化を読み取ったりして、日本の工業についてわかったことや疑問を話し合い、学習問題をつくる。
① (調べる)	工業のさかんな地域について調べ、その地域で工業がさかんな理由を考えることができるようにする。	○工業のさかんな地域とそれぞれの地域の特色を地図や統計資料などから読み取り、さかんな地域の分布について考え、話し合う。
① (調べる)	日本の工業における大工場と中小工場の生産の様子を資料から読み取り、それぞれの生産の特色と役割について考え、まとめることができるようにする。	○大工場と中小工場の生産の特色について、写真や統計資料などから読み取り、ノートなどにまとめる。
① (調べる)	大田区の中小工場で働く人の工夫や努力に気づくとともに、中小工場の高い技術が日本の工業生産を支えていることに気づくことができるようにする。	○写真や働く人の話などを通して、大田区の中小工場のものづくりの様子を調べ、中小工場の工夫や努力について話し合う。
① (調べる)	アイデアを生かした東大阪市の中小工場の工夫や努力を資料から読み取り、日本の工業生産を支える中小工場のものでづくりの特色について捉えることができるようにする。	○写真や働く人の話などを通して、東大阪市の中小工場のものでづくりの様子を調べ、大田区のものでづくりとも比べながら、気づいたことを話し合う。
① (まとめる)	心を豊かにする工業生産について調べ、人々の生活との結びつきから工業生産の役割や意味について捉え、今後目指していく工業生産のあり方について考えることができるようにする。	○心を豊かにする工業生産について、具体的な製品の例をもとに調べ、工業生産が人々の生活に果たす役割や意味について話し合い、これからの工業生産のあり方について考えをまとめる。
① (深める)	日本の工業生産が抱えている課題を捉え、これからの工業生産にとって大切なことを考えることができるようにする。	○日本の工場数の減少をグラフから読み取り、日本の工業生産が抱える課題をこれまでの学習をもとに話し合い、これからの工業生産について考える。

## 6. 本時の指導（第7／7時）

### （1）本時のねらい

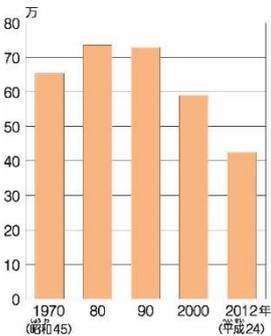
日本の工業生産が抱えている課題を捉え、これからの工業生産にとって大切なことを考えることができるようにする。

### （2）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本小単元で児童に考えさせなければいけないことは、「工業生産が自分たち国民の生活を支えていること」である。そこで、「工業生産が停滞すると、国民の生活に悪影響を及ぼす」ことを切実に感じさせる必要がある。そこで本時では、「日本の工場の数の変化」と「製造業で働く人口の変化」のグラフから、工場の数や工業における労働人口が減っていることを読み取らせ、日本の工業生産の課題に気づかせる。そして、「これからの食料生産」での学習を想起させることで、日本の工業生産の停滞とともに輸入に頼ってしまうことの危険性も思い起こさせる。

そのうえで、これまでに学習してきたことを生かしながら、日本の工業生産の特色や強みなどを再認識し、「現在の日本の工業生産の課題」を克服するために、これからの日本の工業生産はどうあるべきかを考えさせる。また、あくまでも本時は考えを「深める」過程であるため、学級全体のまとめは必ずしも必要なく、一人ひとりの思考を大切に、オープンエンドで大単元を締めくくるようにしたい。

### （3）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○これまでの学習を振り返り、日本の工業生産の課題を話し合う。</p> <p>T：これまで、日本の工業生産に携わる人々の工夫や努力、日本の工業生産の特色について学習してきました。しかし、日本の工業生産には、課題もあります。アのグラフを見て、分かることは何ですか。</p> <p>C：1990年から、工場の数が減っています。</p> <p>C：1990年と2012年を比べると、30万も減っています。</p> <p>T：どうして工場の数が、減ってしまったのでしょうか。</p> <p>C：海外から安い製品が輸入されているからだと思います。</p> <p>C：工場で働く人が減ってしまったのだと思います。</p> <p>T：このまま日本の工場が減っていくと、どうなりますか？</p> <p>C：日本の製品がなくなってしまう。</p> <p>C：日本の景気が悪くなって、働く人もさらに減ってしまうと思います。</p>	<p>◎ア 日本の工場の数の変化 （教科書5上 p.155）</p> <p>◇国内の工場数の減少をグラフから読み取らせ、日本の工業生産のこれからについて考えるきっかけとする。</p>  <p>◇工場数の減少（工業生産の停滞）がもたらす影響について、具体的に考えさせる。</p>
10	<p>○グラフから読み取ったことをもとに、日本の工業生産の課題を考える。</p>	

T: では実際に、工場で働く人も減っているのかどうか、調べてみましょう。グラフから分かることは、何ですか。

C: 工場で働く人も減ってきています。

C: 40年間で、400万人も減っています。

T: それでは、二つのグラフを比べると、どのようなことが分かりますか。

C: 1990年から、工場も働く人も減っています。

T: 工場と働く人は、それぞれいちばん多い時から比べると、どのくらいの割合で減っていますか？

C: 工場が半分近く減っているのに、働く人は3分の1ぐらいいく減っていません。

C: 工場が多く減っているのに、働く人がそこまで減っていないのは、働く人が少ない中小工場のほうが減っていて、大きな工場はあまり減っていないからだと思います。

T: 日本の工業生産を支えている中小工場や、そこで働く人が減ってきてしまっていることが課題なのですね。

**課題**

日本の工業生産の課題を解決するには、どのようにすればよいのだろうか。

15 ○日本の工業生産の課題を解決するための方法を考え、グループで話し合う。

T: 日本の工業生産の課題を解決するためには、どのようなことが必要でしょうか。自分の考えをグループの中で発表し、話し合ひましょう。

T: 課題を解決する方法をグループで話し合ひて、まとめてみましょう。

10 ○グループごとにまとめた、解決の方法を発表する。

T: グループで話し合った解決の方法を発表してください。

C: 国内の中小工場が減ってきているので、これ以上減らないようにしないといけないと思います。

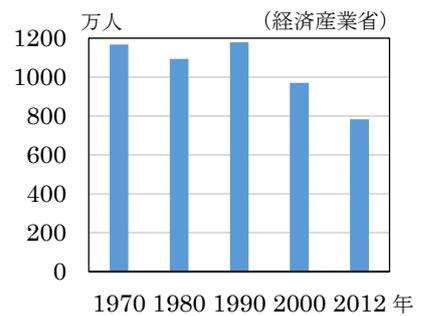
C: 大きな工場はあまり減っていないと思うので、中小工場の高い技術を大きな工場でも生かせるようにすればよいと思います。

C: 外国に輸出できる製品を開発すればいいと思います。

**まとめ**

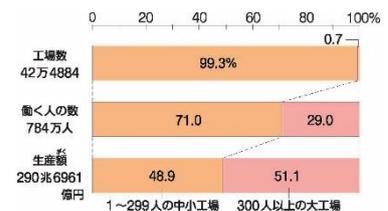
国内の中小工場の数が減っているなかで、日本の工業がもつ強みを生かし、生産を続けていくためにはどうすればいいのか、考えていくことが大切である。

◎製造業で働く人口の変化



新たな資料として、「製造業で働く人口の変化」のグラフを追加し、比較・関連付け・総合する視点をもたせ、児童の思考を促す。

◇工場数と労働人口の変化が関連付けられない場合は、教科書 p.146 ㉔のグラフを提示する。



◆学習したことをもとに、これからの日本の工業生産にとって大切なことは何か、関心をもって考えようとしている。(関・意・態/ノート)

◇オープンエンドとし、児童が日本の工業生産のこれからについて考えていくきっかけとなるようにまとめる。